



Kathy Lien,
Director of Currency Research

gftforex.com
One World Financial Center, 200 Liberty Street
22nd floor, New York, NY 10281

BY KATHY LIEN

今日のFXマーケット 01.25.12
(2012年1月26日発行)

バーナンキ議長の記者会見

バーナンキ FRB 議長のお陰で通貨と株式は大幅に上昇し、金融市場にとっては「好い日」になった。FED は向こう二三年間極めて緩和気味の金融政策を維持し、金利は 2014 年度後半まで超低水準に留まる。昨年 12 月までの FRB は、2013 年まで現行の金利水準を維持するだけで宣言すればよかった。しかし FRB は今日、この誓約を一年間延長したばかりでなく、バーナンキ議長は追加の債券購入もあり得ると述べた。とりもなおさずこれは、FRB が景気の先行きを楽観視していないことを意味するが、投資家は議長の発言を好意的に解釈した。低金利は借手と貸手、および消費者と企業の双方にとって、歓迎すべき事柄だからである。今日米ドルが大きく下落したことから見ても、市場は FRB がここまで緩和姿勢を明確にするとは予期していなかったようだ。今日の発表は投資家のドル売りに格好の口実を与え、今後重要なサポートが破られれば、米ドルが更に下落幅を拡大させる可能性も高い。EUR/USD も力強い上昇を見せたが、以前のサポートがレジスタンスに変換した 1.32 を上抜け出来なかったことで、基本的な EUR/USD の下降トレンドを覆すには至らなかった。ファンダメンタルズ的に言えば、FED は米ドルに死の宣告を与えたことになる。しかし FRB がここまで緩和姿勢を明確にする最大の原因は、欧州に対する懸念である。仮に欧州の債務問題が悪化して金融市場が混乱に陥れば、レバレッジ解消の動きは逃避資金を米ドルへと押しやるだろう。換言すれば、EUR/USD の上昇は常に崩落の危険と背中合わせにある。チャートの的には、多くの通貨ペアが完全に下降トレンドを抜け出すためには、重要なレジスタンスを突破しなければならない。米ドルはもう下落しないと言う訳ではないが、通貨の上昇軌道は多くが期待するほど平坦ではないだろう。

FRB による今日の発表の目的は透明性の向上にあったが、ゼロ金利解除の時期に関する各理事の予測の発表は、多くの意味で明瞭性より混乱を発生させた。投資家が FRB の真意を理解したのは、バーナンキ議長が債券購入の増額について話し始めてからである。発表されたステートメントが全会一致の雰囲気を含ませたものの、各メンバーによる予測は大きく異なった。FOMC17 名の理事のうち、3 名が 2012 年、3 名が 2013 年、5 名が 2014 年、4 名が 2015 年、2 名が 2016 年に、それぞれゼロ金利解除 (最初の利上げ) を予測した。このように予測の内容は理事により様々であったが、利上げは誰の視野にも入っていない。重要な点は、FED が今年もメディアを焚きつけようとするか否かであるが、バーナンキ議長は追加の債券購入を再び選択肢に掲げた。実際議長は記者会見中に何度も、バランスシート拡大の用意があることを繰り返したため、3 月にも QE3 (量的緩和第三弾) の実施があるのではとの印象を受けた者も少なくないはずだ。仮にそれが現実化すれば米ドルの急落もあり得るが、それを決定するのはあくまで欧州の状況である。来週的首脳会議で目立った進展が見られず、欧州で CDS (クレジット・デフォルト・スワップ) スプレッドが拡大を始めれば、為替トレーダーが米国の超緩和政策を忘れ、欧州債務危機に再び目を向け出すのに、さほど時間はかからないだろう。

しかし目下のところ EUR/USD の堅調推移が続き、直近 7 日間のうち 6 日上昇したばかりか、年初来の高値圏で取引されている。背景は投資家の根強い需要、予測を上回るドイツの経済指標発表、および全般的なリスク選好の回復である。株価の上昇を見ながら悲観的であることは、投資家にとって至難の業である。たとえば今日、ドイツでは企業信頼感指数が事前予測を上回った。IFO インデックスは 107.3 から 108.3 へと上昇し、企業が現在および将来の景気に、より楽観的になっていることを示した。多くのアナリストが今年欧州のリセッション入りを予測しているが、少なくとも今のところ、発表される経済指標は後退ではなく成長を告げている。ただしユーロ圏の状況が一夜にして激変し得ることを忘れてはならない。

外国為替保証金取引や、CFD、デリバティブその他のレバレッジ取引には高いレベルのリスクが潜在しており、預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、全てのお客様に適合している投資商品とは言えません。本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

弊社及び著者は投資サービス、法律サービス、会計・税制サービスあるいはその他のプロフェッショナル・サービスは提供しておらず、そのような必要が生じた際は適切なプロフェッショナルからサービスの提供を受けてください。同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録 (関東財務局長 (金商) 第 268 号) および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp © 2012 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複製・複製・転載を禁ず。GD08J.006.011212